



新型コロナウイルスの影響



令和3年産は作付けの大幅な調整が必要

日本酒の急激な需要減が蔵元を直撃!



(有)エコ・ライス新潟
定価 100円(送料込)

新型コロナウイルスの大波は日本酒業界をのみこんでいます。
○日本酒需要減の連鎖

1. 暖冬の影響で鍋需要の減退
2. 年末年始の需要減
3. 年始から新型コロナウイルスによる自粛
4. 「にいがた酒の陣」の開催中止
5. 年度末の歓送迎会、花見等の自粛

と日本酒を飲む機会が激減。一部、家呑みが増えたとの指摘もありますが、外食で飲む量に比べれば微々たる量にすぎません。

日本酒業界は前年秋(令和1年)には翌年(令和2年秋)の仕込計画をたて必要量を仮契約しますが、新型コロナウイルス

ウイルスのような社会的リスクまでは考慮してないのでは、減産分(令和1年産)の余った米は翌年(令和2年秋)に押し出されるので、結果として今年の作付けの酒米、加工米が余ることになります。加えて、終息の見えない中で、日本酒需要が向上する要素がなく、需要減退による余剰も発生します。

○令和3年、4年で調整

このような状況下で、酒米、加工米の在庫が酒蔵の経営を圧迫するのは明白です。原料米在庫を調整する為に、令和3、4年産は数量を大幅に減らし調整しなければならぬ事態です。

日本酒の国内需要は年々減退していき、海外への輸出は伸びていきました。しかし、新型コロナウイルスは世界同時多発で主要な世界都市の外食機能がマヒしている中で、輸出は急ブレーキ

がかかっています。
○緊急事態宣言

政府から発表された宣言により、外食での日本酒の需要はさらに下がります。自宅での需要は増えても外食ほどの量はさばくことはできません。

○蔵と生産者一心同体

このような状況下では、蔵元と生産者が一致協力して難局を乗り切るしかありません。令和3、4年産は一部を酒米から米粉用米等に、需要に対して米の供給が足りないものへと転換しなければならぬと考えます。厳しい現実ですが、生産者の皆様のご意見をお聞かせください。

温故知新!
昔ながらの手作業から人工衛星を活用した農業まで都会で体験!

有限会社 エコ・ライス新潟

表彰式で掲示する予定だったポスター

文部科学省 MINISTRY OF EDUCATION, CULTURE, SPORTS, SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

青少年の体験活動 推進企業表彰

文部科学大臣賞を受賞!

文部科学大臣賞

新型コロナウイルスで表彰式は中止。表彰状のみが送られてきました。



《審査員講評》

本業で培われた最新のテクノロジーを惜しげもなく投入し、子供たちの「思い」をカタチにする…。そのプロセスを共にすることで、子供たちは企業人として、プロとして仕事と向き合う本物の大人たちの魅力に触れ、将来の生業を思い描く。本表彰の一番の意義がここにあると私は思う。

その典型例として、大臣表彰に輝いたエコ・ライス新潟の取組は、農業の伝統的手法をロボットなどの最新技術と融合することにより、未来の農業のあり方、可能性を子供たちと共に考えていく構成となっているところが素晴らしい。

農業を産業としてだけでなく、そこに暮らす人々の生活を含む伝統文化として理解することで、「生業」としての農業を理解できるものだと思う。

(国立青少年教育振興機構 理事: 大本晋也氏)